

1. 日時 平成 29 年 2 月 2 日（木） 15：00～17：00

2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室

3. 出席者（委員）

中島 順次 会長

田口 直美 委員

新澤 信子 委員

4. 主な内容 平成 28 年度学校教育自己診断結果
平成 28 年度学校経営計画及び評価報告（案）
平成 29 年度学校経営計画及び評価（案）

5. 説明・協議

【通信制の課程の報告】

〔1〕平成 28 年度学校経営計画及び学校評価(案)について

※以下 学校評価(案)について、学校教育自己診断結果を反映させながら述べる。

・学校教育自己診断について（11 月実施）

調査対象：活動生 1,821 名・保護者、教員 51 名

回答数：生徒 210 名(回収率 11.5%)、保護者 91 名、教員 51 名

①通信制の学習システムについて

- ・校内分掌の再編を検討し、来年度より生徒部と保健部を生徒保健部に統合。
- ・今年度校務処理システム係を立ち上げ、各週で研修会を実施。

②学習について

- ・スクーリング見学月間等取組の結果、生徒はレポート添削やスクーリング内容に満足している実態である。

③生徒の状況について

- ・自学自習意識の希薄な生徒が最近増加している。対策を行ったが十分に効果が表れたとは言い難い。

④「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質の向上

- ・全スクーリング公開化、教科内研究スクーリングの実施し、その後研究協議を開催した。
- ・NHK 高校講座の活用・スクーリング代替の推進。
- ・校外研修参加教員による報告会を実施し、職員会議時に報告時間を設け、研修内容を共有化。

⑤組織体制について

- ・教育相談体制について教員と生徒の意識に差があるため、環境整備や教員の意識向上に取り組む。
- ・本人・保護者との個別面談を開催し個別の教育支援計画を作成。
- ・生徒の居場所づくりとして、精神保健福祉士等を配置した「ほとりカフェ」を 2 範囲から運用した

⑥学校運営について

- ・教員の公務への参画

意欲と准校長の役割について高い評価を得た。今後も協議の場を積極的に持つ。

⑦卒業後の進路を見据えた進路指導の充実について

- ・看護・医療系説明会を新たに新設。その結果、看護を受ける生徒が増加した。
- ・通信制大学説明会を開催し、多くの生徒が参加した。生涯学習のニーズが高まっていると推察する。
- ・就職希望者に対して個別面談を開催し、就職支援が必要な生徒には就職支援も行った。
- ・本校では卒業後の進路の未定者多数につき、様々な進路をこれから提供する。

〔2〕平成 29 年度学校経営計画及び学校評価（案）について

①中期的目標の 2 に「豊かな人間性」を、中期的目標の 5 に（3）地域と連携した防災教育の取組を加えた。

②取組内容及び自己評価

- ・校内議論を継続させるとともに、校務処理システムの活用を継続。
- ・学校教育自己診断に基づき来年度からスクーリング改善チームを結成。
- ・本校は 8 階建てのため災害時の避難方法などを研究。

[協議・質問事項]

- ・スクーリングの出席管理システムの安定的運用とは⇒誰もが管理・運用できるよう組織作りを行うこと。
- ・「ほとりカフェ」の実施時期について ⇒ 予算の関係で、2 範囲から実施した。
- ・アンケート実施方法について ⇒ 郵送で実施した。
- ・出席管理システムとは ⇒ 生徒に配布したバーコードシールを認識させること。
- ・レポートの提出方法について ⇒ 第 4 種郵便で郵送可能。又は学校 2 階のレポートボックスに直接提出。
- ・アンケートにおいて評価するところが一律にはかれない部分がある。アンケートの結果を一般的な 17、18 歳の若者の平均値と比較し、一般と比較してサポートが必要な生徒が桃谷高校(通)には多いことを予算関係の際に理解してもらえるようにデータとして出してみてもどうか。

【多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部の報告】

〔1〕平成28年度学校教育自己診断について

実施時期：平成28年11月中旬～12月末

(インターネット回答を含む、マークシート式アンケートを実施)

回収率：生徒 222名/561名 (39.8%) 保護者 113名/561名 (20.1%)

教員 48名/48名 (100%)

①対象者別・肯定意見の多い項目(肯定率80%以上)について

- ・【生徒】「桃谷高校に入学してよかった。」(86.0%)と【保護者】「桃谷高校に入学させてよかった。」(97.3%)という結果で、過去4年間で一番高い評価を得た。
- ・肯定率80%以上獲得しているが、H27年度と比較すると評価が下がっている質問項目が多い。

②対象者別・肯定意見の少ない項目(肯定率50%未満)について

- ・「担任以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる。」は昨年度より評価が下がったが、相談件数は昨年度より2名増加(1,765名)。

③必須項目(共通項目)等に関する比較について 【進路指導】

- ・昨年比-10%以上であった。「ももプロ」という独自のキャリア教育を行っているが、結果に結びついていない点を踏まえ、来年度は教員間で改善点の検討を行う。

④分析・課題について

- ・本年度すべての項目で評価が下がる結果となった。

〔2〕平成28年度学校経営計画及び学校評価(案)及び平成29年度学校経営計画及び学校評価(案)について

①保護者との連携について

- ・保護者懇談や家庭連絡を増やすように教員に働きかけたところ、前期：45.5%(昨年度比+4.8%)、後期：2.1%(昨年度比+1.4%)の実施率となった。

②学校力向上のための職員研修の充実について

- ・人権研修3回、支援教育研修2回実施。
- ・コミュニケーションタイムにて、校外学習をテーマに話し合い、出た意見をもとにウォークラリー形式変更したところ、90%(昨年度比+10%)の肯定率を得られた。
- ・3年目までの教員を対象に年間13回の教員研修で、授業力・校務運営力のスキルアップを目的とし、ベテラン教員や大阪府教育センターの指導主事による著作権に関する講演を行った。

③地域連携の一層の推進について

- ・地域の人材を活用した教育活動を「福祉」「家庭科」「情報」で計22回行った。
- ・地域と連携した防災のため、生野区役所の防災担当者による防災研修を行った。

④「学びのシステム」の構築について

- ・自尊感情、自己有用感、自己理解、将来像のアウトカム指数について、アンケートを行った結果、入学時と1年後を比較すると、自尊感情以外は低下している。多くの項目は2年次、3年次になるにつれて上昇傾向にある。
- ・キャリア教育の充実について、進路希望未定率は8.7%で、目標としていた10%以下を達成。

⑤授業力の向上について

- ・ICT機器の活用と発表機会は非常に低い結果で、授業力を伸ばしていく必要があると考える。

⑥総合学習や特別活動等を利用した人権教育の充実と「生きる力」育成の取組みについて

- ・生徒評価が80%以上と高い肯定率を得た。

⑦支援教育・規律指導・教育相談の三位一体による教育活動の展開について

- ・13名分の支援計画を作成し、支援検討会議は7回実施。関係機関とのケース会議を30回、研修を2回実施し、組織的な支援を行った。
- ・生徒指導に対する納得度の肯定率が昨年度比で低下した。

⑧社会性育成のための取組みについて

- ・生徒会活動の活性化に一番力を入れており、文化祭・体育祭への生徒の肯定的評価が上昇した。
- ・校外学習について、ウォークラリー形式にするなど工夫を行い、肯定的評価が上昇した。

⑨居場所作りと安全・安心の向上について

- ・ボランティアの協力を得て、20回の図書室の整備を行った結果、図書室利用者が増加した。

[3] 平成29年度学校経営計画及び学校評価(案)について

①教職経験の少ない教員のスキルアップについて

- ・昨年度まではメンター方式 → 初任者以外についてはMMP(桃谷メンタープログラム)に変更

②キャリア発達を促す「学びのシステム」の構築について

- ・肯定率を入学時比較20%上昇 → 入学時～卒業予定生の経年変化で評価を行うよう変更。

[協議・質問事項]

- ・MMPについて ⇒全13回を予定している。すべて桃谷高校の教員として必要な資質であり、他の学校でも活用できる内容となっている。

【多部制単位制Ⅲ部の報告】

〔1〕平成28年度学校教育自己診断について [11月実施]

回収率 生徒 128名 (44.1%) 保護者 12名 (成人生徒在籍のため不明)
教員 24名 (100%)

- ・今年度から教育センターの『パッケージ研修支援Ⅱ』を実践。2回の研究協議と研究授業を実施。
- ・授業力の改善に取り組んだものの、肯定率の低い項目は授業に関するものが多かった。

〔2〕学校教育自己診断等に基づき平成28年度学校経営計画及び学校評価（案）の説明

①授業改善について

- ・授業について、生徒に行った授業アンケートの結果では肯定率が上昇しており、自己診断結果と合致しない。
- ・単位修得率の向上を図り、卒業者数の増加をめざすことを最終目標としている。

②本年度の取組内容及び自己評価について

- ・生徒に行った授業についてのアンケートにおける肯定率は上昇。次年度も取組を継続させる。
- ・後期から携帯電話等の通信機器の指導を実施。「持たない、出さない、鳴らさない」という「3ない運動」に努めた結果、生徒への定着が見られた。次年度から新たなルールを作って指導していく。
- ・キャリアカウンセラー(cc)を招き講演会等を実施した結果、自己診断における肯定率が上昇した。
- ・特別活動において自己肯定有用感を持たせる取組を行ったが、結果が得られなかったため抜本的見直しが必要である。
- ・挨拶運動を実施。成果がみられた。
- ・人権教育についての肯定率は非常に高くなったが、生徒参加体験型の人権教育ができていないことが教員の自己診断結果からわかるため、改善していきたい。

〔3〕平成29年度学校経営計画及び学校評価（案）について説明

- ・28年度はパッケージ研修を実施したが、29年度は「授業改善チーム（仮称）」を立ち上げ、チームが中心となり各教科で授業モデルを作成していき、それをもとに授業研修や研究協議を行っていく。
- ・「授業集中キャンペーン（仮称）」を実施し、生徒の意識を高める。今後、授業外でもこの取組を広げていきたい。

[協議・質問事項]

- ・成人している生徒の割合について ⇒2～3割。
- ・単位修得率について ⇒27年度前期と比較して28年度前期は上昇している。しかし、後期は27年度後期より低下すると予想される。
- ・学校に来ない生徒に対しての分析について ⇒電話や家庭訪問を行っている。